

令和3年11月

公立学校共済組合東北中央病院 地域医療連携室・入退院支援室

NO.55

TEL 0120-703-995 FAX 0120-168-990 代表 TEL 023-623-5111

医療連携につきましては、日頃よりご協力いただき、誠にありがとうございます。

▷ 第20回 和GO懇話会

令和3年10月28日（木）ホテルキャッスルで、「第20回和GO懇話会」を開催しました。新型コロナウイルス感染予防対策のため、参加者の皆様には消毒及びマスク着用のご協力をお願いし、会場内では座席間隔の確保と換気を徹底しての開催となりました。関係医療機関の先生方にご参集いただき有意義に開催されましたことに、厚く御礼申し上げます。

一般演題

『潰瘍性大腸炎の外科的治療』

演者：外科部長 橋本 明彦 医師（写真左）

座長：消化器・肝臓内科部長 石濱 活義 医師（写真右）



潰瘍性大腸炎は原因不明の病気として、国が定める指定難病の一つとなっております。罹患者は年々増加していましたが、近年は横ばいで推移しており、10～20代の女性に多いという傾向があります。外科的治療として、腹腔鏡手術、HALS（用手補助腹腔鏡下手術）、開腹手術があり、腹腔鏡手術やHALSでは手術創が小さく術後負担が少ないというメリットがあります。手術は大腸全摘出が基本となり、術式には回腸のう肛門吻合術、回腸のう肛門管吻合術がありますが、患者のQOLやADLを考慮して選択していくと、治療の現状をお話いただきました。

特別講演

『膵癌 Up To Date』

演者：東北大学大学院 消化器外科学 教授

海野 倫明 先生（写真左）

座長：循環器科部長 須藤 直行 医師（写真右）



膵癌は「最凶」の癌と言われ、5年生存率7.7%であり癌の中でも罹患者数が7番目に多く、死亡者数は4番目に多い疾患です。罹患者数は年々増加の傾向にあり、まれな癌ではなくなっています。膵癌の切除可能分類では、遠隔転移などの理由で6割が切除不可能とされていますが、切除不能（境界）膵癌でも抗がん剤治療を先行し、その後手術を行うことが現在の主流です。術前化学療法を行うことでリンパ節転移や肝転移の減少がみられるなど、治療成績も良くなっております。残された課題として、より優れた術前治療法、認知症や合併症を抱える高齢者への術前治療の確立などが挙げられています。暗黒臓器と言われた膵癌治療は、夜明け前のように少し明るさが見え始めており、これからの膵癌治療は外科手術と化学療法でいかにコントロールしていくか、チーム医療で連携しながら取り組んでいくことが大切と、今後の治療の展望について貴重なお話をいただきました。

今後も地域医療の発展のため、先生方の御要望をお聞きしながら尚一層の努力を重ねて参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

